

はらっこマミー



こんにちは！
はらっこマミーです★
6月号では各学年のマミー紹介
マルシェの報告をします♡

★年長

年少・年長

兼任マミーがんばります！
よろしくお願いします♡
すんどう ゆき

ラストイヤー
全力でたのしむ
おかげさあり♡

ラストはらまち！
楽しく活動していきます！
はるかよ

お仕事をなが
ら頑張ります♡
楽しみます！！
すずき さおり

つぎ
馬場 真綾

つぎ
鈴木 心夏

つぎ
小川 双葉

はし 原 一 加

つぎ 畠山 珠希

つぎ
庄司 葵

ラストイヤー
おもしろく楽し
ます！！
はなやま けい

最後の一年も
みなさんとワイワイ
楽しみたいです♡
あみ

つぎ 藤原 章斗

はし 藤原 向葵

はし 植松 涼香

マミー初！
最高の1年に...！♡
かまた ゆりあ

初め2のマミーですが
一生懸命頑張ります♡
よろしくお願いします！！
MAYA

マミー3年目です！
楽しい一年間になりました♡
活動します！
植松 彩



年中



初めてのマミー、
頑張ります!!
よろしく願いします♡
しょうじ かおり

ばら
藤江 朝香



初めてのマミー!
楽しく頑張るぞー♡
かつまた えりか

ゆり
勝又 郁人

ゆり
桑原 紬葉

子どもたちが楽しい
幼稚園生活を送れるように
サポート頑張ります。
藤江 香奈

ばら
佐司 柚葉

ゆり
杉崎 景

ゆり組 せい
初めてのマミー
ですが、こどもたちと
楽しくすごせるよう
がんばります! 杉崎 景

年少

いちご
馬場 咲枝



めろん
立原 亜希斗

めろん
昆田 悠世

いちご
浜村 和茂

めろん
遠藤 花湊

立原 彩華
こどもたちの笑顔の
一助になれますよう
がんばります。
あきと

いちご
鈴木 結夏

皆さんと全力で
マミーの活動
楽しみたいです!!
遠藤 ルカ

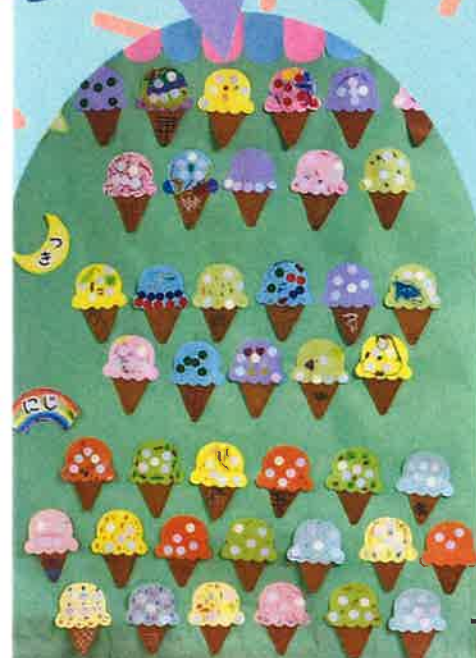
初めての
マミーで、分からな
いことも多いですが
がんばります!!
昆田 しょうこ

5年ぶりのマミーさんです
が、楽しい1年になるように
精一杯頑張りたいです!!
いちご組 浜村 里奈

改めまして、このメンバーで
今年度活動していきます
よろしくお願いします

MARCHE

マミーブースでは
パフェ、お弁当、クレープ
の製作遊びをしました。
作った製作物を使って
写真をパシャリ📷
在園児たちにも協力
してもらった
壁面装飾も飾りました🎉





ババとパフェ作り



真剣な表情



ピクニック風のフォトブース



カフェ風フォトブース



マミーさんとママと一緒に作ったよ



お弁当作ってたよ!!

マミーブース

遊びに来てくれて
ありがとう
ございました

【年少クラス】

年少さんクラスでは集まりっこなどを通して楽しく並ぶ練習をしたり、マットで色々な動物歩きやでんぐり返しに挑戦したりしました！

自分の番が終わったらしっかり戻って並んだり、最初は難しいですが徐々に慣れてきていると思います！

今後も色々な事にチャレンジして楽しく体育に取り組んでいきます！



【年中クラス】

年中クラスは年度始めということで、並び方や集合の練習をクラス対抗で競走したり、直線リレーや王様ジャンケンゲームなどたくさん走るゲームをしました。またマット運動では、動物模倣で支持力や体幹を鍛えたり、でんぐり返し、後ろでんぐり返しにも挑戦しました！

いろんな種目を通して身体操作を覚えたり、さらなる運動能力の向上を目指して楽しく体操していきたいと思います！



【年長クラス】

年長さんクラスは、ジャンプ練習や走り方の練習、時間の最後には様々なゲームをみんなで楽しく行いました。

また雨の日はホールで跳び箱練習を行いました。

運動会でかっこよく跳べるように、引き続き練習を頑張っていきます！

今後も様々なことにチャレンジしながら、年長さんらしく明るく元気に体操していきましょう！

昔でいえば電話帳、今ならネットなどで習い事を探すことになりますね。

私たちが扱っている内容は ピアノ、ギター、歌、おこと(箏曲)、DTM、指導法などで、非常に範囲が広いので「音楽教室」という呼び方になります。

この呼び方は非常にあいまいで、広く浅くどのような使い方もできると思います。



「中畑」は御殿場創業地名。周りの黒線はイルミネーションです。

ピアノに特化したものは「ピアノ教室」と呼ばれ、音大のピアノ科卒業やコンクール出場者といった経歴の方が用いているようです。

我々もそれぞれ標榜している科目にそれなりの実績があり、出張演奏、合唱指導、合唱助演、客演指揮、作編曲、レコーディングなど行っています。

教室としては、ピアノを導入として幅広く音楽に触れる機会を提供しています。



定期的に首都圏の楽器店などで取材して楽器事情や楽譜の流通を知るようにしています。

しかし、音楽教室への要望や期待が揺れ動いているのも感じています。

店員とやり取りをする声を要約すると

「遊ばせてくれない」「知ってる曲を弾かせない」「上手くなるのに時間がかかり過ぎる」

これらは習い事をするという事から逸脱した、単なる「注文」になってしまい、

子供の成長とともに方向性が危うくなると我々は考えます。

何を習うのか、どうやって身につくのか、それが何の役にたつのか
見方を変えながら解説してゆきます。



ボンチチ

16

6月号

「はらっぱ」をご覧のみなさん、こんにちは。
卒園生の父で川口慶と申します。
このボンチチでは、書籍やボードゲームの紹介をさせていただいております。
この連載も16年目になりました。よろしくお願いいたします。

ピン、ポン、バウンド！バウンス・オフ！



バウンス・オフ！

メーカー：マテル
対象：7歳以上
人数：2人～4人
時間：15分
参考価格：¥2530（税込）

今回紹介するボードゲームは、「バウンス・オフ」です。

青色と黄色のピンポン玉を、それぞれ青チーム、黄チームに分かれ、バウンドさせて、トレーに入れていくゲームです。ただ入れるのではなく、お題カードがあり、カードで指定をしている形に入れなくてはなりません。

玉入れゲームですので、ルールはいたってシンプル。対象年齢は7歳からとなっていますが、年少さんから遊べます。

子どもはワンバウンドで入れる、大人はツーバウンドで入れるなど、独自ルールで難易度を調整すれば、子どもでも勝てるゲームです。ハンデ戦では、大人の方が熱くなってしまうかも。家族みんなで楽しめるパーティゲームです。

BOUNCE-OFF

バウンス・オフ!

GOOD
TOY

遊び方 トレーをテーブルの中央に置き、自分のボールの色を決めて、ボールホルダーにボールを並べよう。

1

カードを引く

1枚カードを引いて、
テーブルに置こう。

カードは
9種類

2

ボールをトレーに
投げ入れます

ボールを1回以上バウンドさせて
トレーに着地させよう。手持ちのボールを
すべて投げ終わったら、
トレーから1つ戻して
使てね。

3

カードとマッチ
するまで勝負!

自分と同じ色のボールがカードの
絵と同じ並び方になるように、
ねらって投げ入れよう!

4

カードを獲得!

最初にボールをカードどおりに
投げ入れた人は、カードを自分の
ものにできるよ!

5

次のカードに
チャレンジ!

最初にカードを
3枚ゲットしたら
勝者!



倶楽部 ダンケビツテ

「遊びは学び」

倶楽部ダンケビツテは家族向けのボードゲームサークルです。
今は、コロナ感染症があったため、活動を休止しています。
なかなか活動再開できませんが、このページではボードゲームを紹介していきます。

ボードゲームは優れたコミュニケーションツールです。

対戦相手との挨拶から始まり、ルールに沿って遊ぶ良識あるマナー、そこから広がる交流など、社会性が養われます。

また、常に自分・相手の状況を考えながら、最良の方法を見出して勝利を目指すので、非常に頭を使い、知育的な側面もあります。

親が子どもとゲームを遊び、ルールの助言や、人との交流に、積極的にかかわっていくことで、子どもとの絆を深め、親子一緒に成長していくことができます。

依頼してくれた人の魂胆に、
面白いことを何かして！と
求められている気がした。



昔、女子大で「ユーモア特論」と題した
授業をしていた。
英文科四回生向け選択講座のひとつだった。



団 士郎



受講生一人一人が、
一年の終わりに
ユーモアセンスが
少し磨けた女性に
なっていることを
目指します！

いろんな人間ドラマの
おかしみを、家族をキーワードに
探索してみませんか？



授業では、
世の中の様々な
面白さを発見し、
味わうことを
目的にします。

『ユーモアとは人間生活に
にじみ出る、おかしみ、
上品な洒落、人生の矛盾などを、
人間共通の弱点として
寛大な態度で眺め楽しむ
気持ち、と辞書にはあります。



そこで履修要項
(シラバス)には、
こう書いた。

私はお笑い講演会をするつもり
などなかった。



しかし実際のところ、
何をするのかは
伝わっていないかった。



登録者も教室いっぱい
の
八十人近くになった。



見たこともないシラバスは
女子学生たちにうけた。



結果としてこれで
通ったのだから面白い。

だから受講生たちが
日常で見つけてきた話が
教材なのだと伝えた。



翌週、それらを素材に
私が膨らませて語る。
深夜ラジオのお便り風だ。



課題はこうだ。
毎回授業終わりの十五分間は、
過去一週間を振り返って
面白エピソードを一つ見つけて
レポートに書いて提出する。



各自の日常から
ユーモアを発見する作業を
繰り返させようと考えていた。



つまりこれから一年間、四六時中、生活の中のユーモアを意識して過ごすという宿題だ。



はじめの数回、なかなか軽やかなユーモアは登場せず、友達間の若者ネタが多かった。しかしそれは徐々に変化していった。



今も印象に残っているのは、こんな話だ。



うちの大学の各校門には、門衛さんが立っていて、学生たちは必ず朝夕の挨拶を交わすのが習慣です。



ある日の下校時、私は考え事をしながら歩いていました。

そんな中、ぱっと門衛さんの目に入ったのです。



反射的に出たことばが、「ごちそうさま」。



言ってから気がついて真っ赤になったという。

別の学生は、休講で予定より早く帰宅した日のことを書いた。

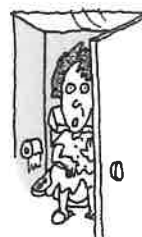


玄関の鍵を開けて入ると、トイレのドアが開いて、母親が居た。

「ドア閉めといて!」と閉じると、



「昼間はお母さんの好きにさせて!」と言って再びドアが開いた。



考えられないようなことですが、母は平日の昼間、トイレのドアは閉めずに使っているようでした、と書いた。



こんな話もあった。姉と私は夏場、パジャマ代わりに、父の新品のトランクスを使っています。



それを知らない父は、「確かに買っておいたはずがないなあ」と毎年、夏になるとストッキングを探しながらブツブツつぶやいています。



通年の授業だったので、受講生のユーモア発見の目はどんどんシャープになっていった。

就活の面談で授業が話題になった時には、「ユーモア特論」は必修アイテムだとも聞いた。



面接官の食いつきが良く、自分たちは話題を上げられるように鍛えられているというのだ。



あなたも日常生活の中のユーモアをメモしてはいかがでしょう?

“木陰の物語” 広がる! プロジェクト



<https://honblock.net/kokage/>

「木陰の物語」を読んだ感想や、あなた自身の物語をお寄せください。



ライバル校に
追いつけ、
追い越せの
カリキュラムは、
高校生活を
楽しめたかった
彼女には
合わなかった。



娘はあまりそりの合わない
高校に通っていた。

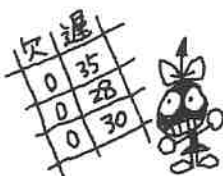


「高校から呼び出されたから、
行ってくるけど、
何時やと思う？」



業を煮やした学校から、
保護者に呼び出しが
かかった。

何度注意されても、
通知票の遅刻表記が
減ることはなかった。

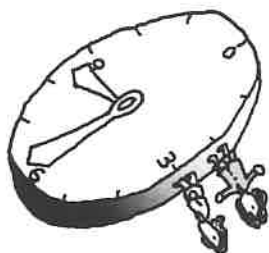


そうなる
遅刻が累積する。

部活や友人関係は、
楽しそうに
していたから、
授業や校風が
合わなかったらしい。



親も遅刻容認の姿勢で、
この問題を考えているのでは
ないかと思われたようだ。



保護者同伴で
登校せよと言ったのだ。
「なるほど！」
と思った。



ところが指定時刻は朝の8時半。



保護者呼び出しで、
説教を食らうのならと
放課後の
職員室を思った。



大急ぎでタクシーを
呼んで、ギリギリ
滑り込みで
間に合ったという。



しばらく試していたが
そんなことをしていたら
遅刻してしまう。



ところが、エンジンが
かからなかった。

妻は当日、
指定時刻に間に合うように、
娘を助手席に乗せて、
自宅を出ようとした。



本人に聞くと、
学校近くまで行って、
一眼目をズルしたり
していたらしい。



遅刻を繰り返していたのは娘である。



妻は毎日、間に合うように登校させていた。

しかし指定された日、車トラブルで大慌てすることになった。



もし定刻に娘と二人でいつもの通学電車に乗っていれば、そんなハプニングはなかった。



ここに妻の

「遅刻くらいで…」という気持ちが見える。

ところで、娘の遅刻がその後どうなったかというところ



そこは学校の顔を立てて、外してはならないポイントだろうと夫婦で大笑いした。

とにかく「遅刻」の呼び出しなのだから、遅刻せずに応じて、謝罪する。

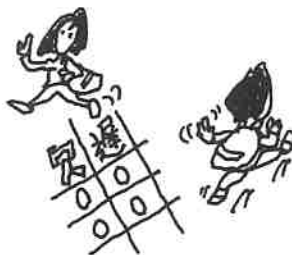


思春期にはよくあることが、わが娘に集中していたのだ。



娘の遅刻に特別な主張が込められていたわけではない。

高校卒業後、希望の専門学校に通うようになってゼロになった。



それどころか、授業の後に、別のレッスンにも通うようになって、どちらも皆勤賞だった。



その専門学校では久々だという学長賞も貰った。



つまり、高校と合わなかっただけのことだった。



無論、時には合わないことも我慢してやりきる道はある。

一方、自分に合ったことを一生懸命やる道もある。



それぞれが導く未来がどうなるかは、個人差の大きいことだ。



私は好きな方を選ぶ人と気が合うが、上手くいくかどうかは関係ない。

“木陰の物語”
広がる! プロジェクト



<https://honblock.net/kokage/>

「木陰の物語」を読んだ感想や、あなた自身の物語をお寄せください。